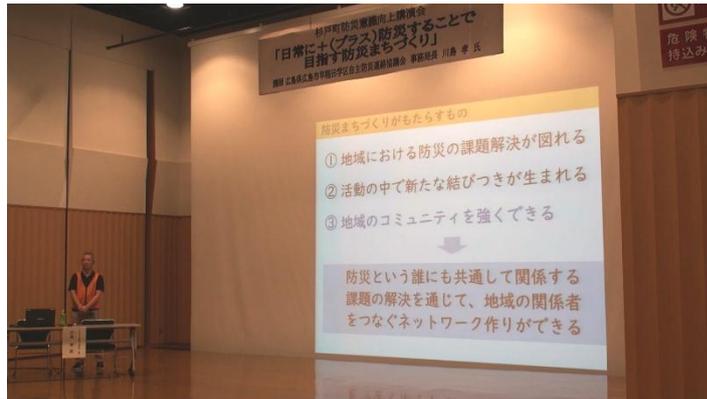


開催地名	埼玉県 杉戸町
開催日時	令和6年9月16日(月)10:30~12:00
開催場所	杉戸町立図書館・生涯学習センター
語り部	川島 孝(広島県広島市)
参加者	杉戸町自主防災組織 113名
開催経緯	地域によって防災意識に差があり、どのように地域で活動をしていけばいいのかよくわからないといった声があることを認識している。また、当町では地区防災計画の策定に至った団体はなく、今後計画策定率を上げていくためにも、地域で様々な活動を実施されている方より講話いただくことで各地域の防災意識向上を図るため。
内容	<p>■自己紹介と地域の概要 講演者の川島孝氏は、昭和47年1月8日生まれ、島根県松江市出身であり、現在は広島市東区の早稲田学区で、防災活動を中心に多岐にわたる地域活動に従事している。早稲田学区自主防災連絡協議会の事務局長を務めるほか、町内会長や社会福祉協議会事務局次長も兼務している。 早稲田学区は広島市の住宅地として発展してきた地域であり、人口約6,000人、世帯数は約2,600戸。広島駅から車で約10分の距離に位置し、自然に囲まれた環境の一方で、約6割が土砂災害警戒区域内に指定されている。こうした地形的な背景から、防災対策の必要性が高く、平成26年の広島土砂災害を機に地域防災活動が本格化した。</p> <p>■平成30年7月 西日本豪雨による被災と課題の浮上 平成30年の西日本豪雨では、早稲田学区内でも土石流やがけ崩れが発生し、複数の家屋や施設が被害を受けた。この災害を通じて、地域では避難行動の遅れや避難所運営体制の未整備、要支援者への対応不足、資機材の不足、情報発信体制の脆弱さなど、複数の課題が浮き彫りとなった。</p> <p>■「わせた防災プラン」の策定と実践 災害の経験を教訓に、早稲田学区では「わせた防災プラン(地区防災計画)」を策定。地域住民や関係団体とともに、誰が・どのように課題を解決するかを明文化し、継続的な取り組みにつなげている。キャッチフレーズは「日常に+防災を」。このプランでは、関係者全員が計画段階から参画することを重視し、大雨時には2か所同時に一時避難場所を開設するなど、実行可能な対応策を盛り込んでいる。</p> <p>■防災まちづくりと日常への取り入れ 防災は特別な活動ではなく、日常生活の中に自然に取り込むことが重要とされ、様々な工夫がなされている。たとえば、家庭向けの「わせた防災プラン・家庭版」の全戸配布、広報誌やホームページによる情報発信、防災イベントの開催などにより、住民の防災意識を高めている。 また、防災訓練の実施に加えて、福祉的な観点から要配慮者支援のワークショップ(ぼうさい茶話会)も実施。自分たちが楽しめる活動を通して継続性を担保し、地域内のつながりを深めている点の特徴である。</p> <p>■子どもたちへの防災教育と未来の担い手の育成 防災を文化として根付かせるため、子どもたちへの教育にも力を入れている。早稲田学区では「子ども防災教育ステップアップ」と題し、幼児期から段階的に防災を学び、最終的には中学生が地域防災の実践者として活動できるよう教育している。防災イベントでの体験、学校での授業、地域行事への参加などを通じて、若い世代の意識を育てる取り組みが行われている。</p> <p>■地域防災プラットフォームの構築 近年は、警察、医療機関、NPO、企業、メディアなど、これまで地域防災に関わってこなかった多様な主体とも連携を図り、「地域防災プラットフォーム」を設置。共通のテーマに基づく意見交換を通じて、「顔の見える関係性」を築き、非常時の連携体制を強化している。</p> <p>■防災活動を支える人のつながり 活動を進める中では、形式的な企画書だけでは人は動かないという教訓も得られた。最も大切なのは人と人のつながりであり、それこそが防災活動を実行に移す原動力となる。新たな仲間づくりの取り組みとして、ボランティア・バンクの活用やワークショップへの参加呼びかけなどを積極的に行っている。</p>

■まとめ

防災まちづくりが地域にもたらす意義は非常に大きい。第一に、地域固有の防災課題を住民自らが把握し、解決へと動き出すことができる。第二に、活動を通して新たな人とのつながりが生まれ、それが新たな活動の推進力になる。第三に、防災という誰にとっても無関係ではいられないテーマを通じて、地域のコミュニティが強くなる。つまり、防災を切り口として地域を再構築することが可能になる。

また、防災活動に積極的に関わる中で、日頃の暮らしと防災の境界が曖昧になり、自然と「防災が日常に溶け込んでいる状態」が実現される。それこそが真の意味での“防災力のあるまち”であり、早稲田学区が目指している未来の地域社会のかたちである。今後もこのような地域の取り組みが多く市区町村で参考とされ、広がっていくことが期待される。



開催地より

災害の体験談や、災害に強い地域を目指すための活動、自主防災組織に関する具体的な事例についてわかりやすく説明をいただいた。今後いつ起こるかわからない災害に対する自主防災組織における体制づくりという点で、参考になる点が多かった。